



据河院次郎百首
中

特別
イ 4
3163
55(2)





秋十八首

残暑

ひととなりせむれもころもあきかたを
 いましくをさるかきひてまらし
 秋をさるそれよれをさすくくして
 赤紙をれ月つらきなり外
 赤きそてはくせひやう船つれもあき紙
 赤いそ志あうひむつう紙や
 赤いあきれあすくくあわあき
 赤いさもなきて赤いやうん

秋仲

仲実

松橋

忠房

ありかんまわつさいつらどつらうぞんく
 秋ゆきありむなむいまふらり 画昌
 ありは乃ちたさけ葉とらるるうーて
 まいこらもてはあけくのみふ 常澄
 ちる露とわらそひれくくあひまう
 ありさういえるそぞらまじられ ちを

晩立

ゆふしらわらぬさりぬふくをんやん
 露の紙とじろまけをそれさ 秋仲
 ゆふしらわらぬさりぬふくをんやん

ありは乃ちたさけ葉とらるるうーて
 まいこらもてはあけくのみふ 常澄
 ちる露とわらそひれくくあひまう
 ありさういえるそぞらまじられ ちを
 ゆふしらわらぬさりぬふくをんやん
 露の紙とじろまけをそれさ 秋仲
 ゆふしらわらぬさりぬふくをんやん

おれおれそら〜とあはれうらみ 二首

秋風

あきこれ秋れさあぬしれきもせゆかしく小
うらうけりまきやれそらうらむ
おれおれそらうらむとけきあふりやせし
ゆあ〜むらうらうらりかりたり 仲若
あきうてい志のひれあへそとあひくさや
かせなとられてくれかゆえん 佐頼
いろみえやゆれおしうれするられ
おれおれそらあきこれゆらむを 忠房

ま〜ゆり〜あ〜ら〜れ〜ら〜れ〜あ〜ら〜ら〜り

兼昌

う〜ゆ〜あ〜ら〜ら〜あ〜ら〜ら〜ら〜ら〜

常澄

あ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜

大を

七夕の夜

あ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜
あき吹うきよのあき〜れれに 顯付
ひこゆ〜れ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜

おら月れおのこらさるるおのこら
おのこらさるるおのこらさるる
おのこらさるるおのこらさるる
おのこらさるるおのこらさるる
おのこらさるるおのこらさるる
おのこらさるるおのこらさるる
おのこらさるるおのこらさるる
おのこらさるるおのこらさるる
おのこらさるるおのこらさるる
おのこらさるるおのこらさるる

九月九日

おのこらさるるおのこらさるる
おのこらさるるおのこらさるる
おのこらさるるおのこらさるる
おのこらさるるおのこらさるる
おのこらさるるおのこらさるる
おのこらさるるおのこらさるる
おのこらさるるおのこらさるる
おのこらさるるおのこらさるる
おのこらさるるおのこらさるる
おのこらさるるおのこらさるる

おのこらさるるおのこらさるる
おのこらさるるおのこらさるる
おのこらさるるおのこらさるる
おのこらさるるおのこらさるる
おのこらさるるおのこらさるる
おのこらさるるおのこらさるる
おのこらさるるおのこらさるる
おのこらさるるおのこらさるる
おのこらさるるおのこらさるる
おのこらさるるおのこらさるる

1816

1817

おなやわらりてんも月乃菊

大を

秋夜

おれうさ紙おのひわうせらあまう
いも露けさあされもれく
すうのすうらる月れ葉のくーさ
鷗なるいあもくしのもれ葉
秋れ葉のしられらる月れ葉もれ
くまららる月れららる月れ
あなうささ紙れもれくささひ
まもらる月れにめならる月れ

仲夏

億頼

出房

秋乃葉の并れらる月れらる月れ

兼昌

あされ葉をあまらる月れらる月れ

常澄

しれれおのひららる月れらる月れ

大を

曉月

あさららる月れらる月れ
あさららる月れらる月れ
あさららる月れらる月れ

秋仲

あり明る月をちりさすく
 ありあきけ月のかくさるる
 ときもや物結おしけりあり
 あり月れさつる月とさるる
 おやつものさあけけり
 いまぬゆりさるる川にさるる
 わきてやさるるあり明る月
 あり明る月のさるるさるる
 まさるるさるるあさるる入
 あり明る月をさるるさるる

仲実
 後頼
 忠房
 兼昌
 常陸

月乃日らりさるるあはるる
 うへらさるるさるるさるる
 さるるさるるさるる
 さるるさるるさるる
 さるるさるるさるる
 さるるさるるさるる
 さるるさるるさるる
 さるるさるるさるる
 さるるさるるさるる
 さるるさるるさるる
 さるるさるるさるる
 さるるさるるさるる

大を
 嵐
 後頼
 忠房
 兼昌
 常陸

あさきつらまふれはらるのちるかきり
しきりらりり山崎れを 兼昌
藤山おろすあしれをけーきに
まふれはらるのあきおはら 幸隆
しきりらりりあしりさき
しきりらりらるるは 大を

稲妻

けりりや田中らけりらりりり
けりりらりけりらりりりり
あさきつらまふれはらるのちるかきり

あさきつらまふれはらるのちるかきり
しきりらりり山崎れを 兼昌
藤山おろすあしれをけーきに
まふれはらるのあきおはら 幸隆
しきりらりりあしりさき
しきりらりらるるは 大を

104

104

日ころをたもとのゆくふすり 大を

根田

をらふあつとそられ替井ふあまのまて

まはれそそとつらつら田はひ 歌伴

そらら田はひと田うりてれ根のひれ

つらつらつら 秋とこゆの舞 仲夏

ゆらゆらあつとつらつら 後頼

あつとあつと 後頼

ひさうけぬたつと 後頼

むろれわりの田ふたつら 忠房

いかな 忠房

あくれぬつら 忠房

えん 忠房

ほふ 忠房

あ 忠房

お 忠房

草書

と 忠房

あ 忠房

お 忠房

忠房

川乃... 付実

わさ... 忠房

あさ... 忠房

きう... 忠房

あら... 忠房

くはれ... 忠房

鳥

を... 忠房

わ... 忠房

と... 忠房

ち... 忠房

は... 忠房

うらまはす川枝ぬしとれくぬるは
本流くよるれお葉まのり
山流とれじらうぬいぬるたぬ
つらうて枯れつらぬをそぬ
あまうりれつらぬをそぬ
去れうあそやうぬすん
ふと

作

山流とれあ〜ぬをそぬはうぬ
をぬぬぬけ〜ぬをぬぬ
うらまはす川枝ぬしとれくぬるは

去れれああそ〜ぬをぬぬ
うらまはす川枝ぬしとれくぬるは
作れぬらうらぬぬぬ
いたうやぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
あまうりれつらぬをそぬ
け〜ぬぬぬぬぬぬぬぬ
うらまはす川枝ぬしとれくぬるは
わさ〜ぬぬぬぬぬぬぬぬ
うらまはす川枝ぬしとれくぬるは

竹実

後頼

忠房

善昌

常澄

竹実

廿二

けいそれつらねのふもふとふ
ふと

秋山

まやうんふくともみようしつあは

うけうふふふふふふふふふふ
秋山

まふふふふふふふふふふふ
秋山

はふふふふふふふふふふ
秋山

まやうんふくともみようしつあは
秋山

まふふふふふふふふふふふ
秋山

まふふふふふふふふふふふ
秋山

まふふふふふふふふふふふ
秋山

忠房

いづくもいづくもいづくもいづくも
秋山

いづくもいづくもいづくもいづくも
秋山

いづくもいづくもいづくもいづくも
秋山

いづくもいづくもいづくもいづくも
秋山

いづくもいづくもいづくもいづくも
秋山

いづくもいづくもいづくもいづくも
秋山

松虫

いづくもいづくもいづくもいづくも
秋山

いづくもいづくもいづくもいづくも
秋山

いづくもいづくもいづくもいづくも
秋山

秋山

神の安のきや頼む心ぬん
仲実
ゆりあまののくもや物をたし
松しーなまて露ありり
後頼
と記さく山ありとれ神の小年とて
ゆりまらぬ松しーれ
出房
夕されいさなれ志くやらあ
月すのほれーささく由也
兼昌
くれまなれるれ身はは
くまの山しーれわらえ
兼隆
白しらめてさるしうわされくは

おろーろろふ松しーれく
大さ

終出

すむしーれー志をすかときーわろふ
酒伴
あつすられ名破れを記やれすしーを
仲実
しきやゆあくとおひけり
教行しーありあつられすしーを
後頼
ち記うりてもあーつる
正られあつらるらりあさらり
出房
あつれあつれすしーれー志

清将野よ射くすはさし〜
あつり〜
秋を〜
あさ〜
あり〜

養

あつり〜
あつり〜
あつり〜
あつり〜

やそ〜
あつり〜
あつり〜
あつり〜
あつり〜
あつり〜
あつり〜
あつり〜
あつり〜
あつり〜

ありせつゝありけりもろあらし
清くもろくしてありふもろれん 兼思
ありあらしのれは幸れけりもあま
さしおれもろけすてける哉 常徳
ありあらしもろけりもろありあらし
ありあらしもろけりもろありあらし 大色

落葉

ありあらしもろけりもろありあらし
ありあらしもろけりもろありあらし
ありあらしもろけりもろありあらし
ありあらしもろけりもろありあらし
ありあらしもろけりもろありあらし
ありあらしもろけりもろありあらし

ありあらしもろけりもろありあらし 竹更
ありあらしもろけりもろありあらし 俊頼
ありあらしもろけりもろありあらし 忠房
ありあらしもろけりもろありあらし 兼思
ありあらしもろけりもろありあらし 常徳
ありあらしもろけりもろありあらし 大色

ありあらし

ありあらし

きりしひのれとては錦をきく 去る

五節

なまめ子うきれう人よりそそめれは

目うけふまうあまれを衣 歌伴

ととあまの袖うらうあまをきくうき

とよめあうらふよとえむさうらり 付実

思うけさすまこのあまの打とけて

とらまうらんまもてうやすと 後頼

あまのあまれけうけう海うめれん

あまのまもあまきうらうら 忠房

海音

四十三

もろ人のあまうきりあれまもあま

うらまれすまれまうれまもあま 兼昌

月うけまもあまのあまうらあま

我すうらまのあまのあま 常陸

くりりらまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあまのあま 去る

推察

あまのあまのあまのあまのあま

去井 去るのあまのあまのあま 歌伴

いほまれくあまのあまのあまのあま

海音

四十三

人れらなをなす... 件実
 なるうひくうれ... 後頼
 ねいん... 忠房
 志くれつ... 兼昌
 校らなひけ... 常隆
 久... 梅...

うんろふらりあ... 大を

藪

あり... 形伴
 つ... 件実
 をれ... 後頼
 あり... 忠房

次

〇

朽りく梅の志はくはましくみゆれは
くありの目も何ぞよきと
こも木枝をれく梅もよきと
あさけのゆけは煙の何なり
志のゆきくこつてはなれ
誰ゆかゆらたもいふらん
たを

念

久しほしきものゆの梅のあけぬこと
あきれあまのなむらり
あせの事いふこと
たを

人さし梅のあけぬこと
あきれあまのなむらり
あせの事いふこと
たを

念

念

ひらりあすまの風もさへ

北島参り

あーとらけはしりらひの波かけ

うきぬきつらぬ身をそへ根方

よほさしこいもなるとたうれや海川

はらあなをーれすこころふ

なーりれすこころひれうすこけり

けらやうら毛はもろもろおん

各々あまのしるきおろふおれり

はらぬきとーれきとせし

出房

付実

後取

や海川がーりもぬきとらーりうきけり

一はらひあつさうすーり

兼帯

こころぬきとらけけり

兼帯

よももにぬきとらけけり

大を

貢調

あーりやうらぬきとらけけり

せぬきとらぬきとらけけり

歌伴

あーりやうらぬきとらけけり

小松少けて今そ法乃一の下あゝ舞
 言はれう一人おたりす〜も 兼呂
 人いこす三世人傳へける成さけん
 心〜乃法いすや三西院ん 常隆
 かのれくて月日なれとさ〜くれて
 仏世御々成法さ〜そ整〜と 大を

舊年立書

う〜すくらやますくれこめそあさわす
 さ〜そららるれともしら〜と色 既仲
 あ〜とぬれ と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

さひれくす〜と〜と〜と〜と
 一〜と〜と〜と〜と〜と〜と
 小松少けて今そ法乃一の下あゝ舞
 言はれう一人おたりす〜も 兼呂
 人いこす三世人傳へける成さけん
 心〜乃法いすや三西院ん 常隆
 かのれくて月日なれとさ〜くれて
 仏世御々成法さ〜そ整〜と 大を

星合式分紙 三海とふ 三海は月夕
本がたれて 嵐然とふ くらとふ
谷はゆきり じきひあひて じはる半に
とられはく 袖たつらも じはるれ
いぢるもれ じきひあひて じはるれ
ししあひて いふと月つらと
じしあひて けきひあひて じはるれ
しきひあひて じはるれ じはるれ
しきひあひて じはるれ じはるれ
しきひあひて じはるれ じはるれ
しきひあひて じはるれ じはるれ
しきひあひて じはるれ じはるれ

を乳分乳とわゆを乳 わるる乳あ
世にゆるる乳

夕舞

一とせふとらうらうらとわゆと
わゆとわゆとわゆとわゆと
わゆとわゆとわゆとわゆと
わゆとわゆとわゆとわゆと
わゆとわゆとわゆとわゆと
わゆとわゆとわゆとわゆと
わゆとわゆとわゆとわゆと
わゆとわゆとわゆとわゆと
わゆとわゆとわゆとわゆと
わゆとわゆとわゆとわゆと
わゆとわゆとわゆとわゆと
わゆとわゆとわゆとわゆと

PART 1

中のよひにむらり年たうちあひの
 あひまやうのむらり年たうちあひの
 書らむいふけしてまむわうらん
 としれうらむまむいふらむらうけふ
 書けれらむまむいふらむらうけふ

兼高

崇隆

大を



